

大学名：東海大学教養学部

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東海大学付属甲府高校の申請にあたって、相談に応じた。</li> <li>● 星槎高校からの実践報告について、相談に応じた。</li> </ul>
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 山梨県立吉田高等学校のチャレンジ期間終了についてやり取りをした。</li> </ul>
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● かながわユネスコスクール・ネットワーク(KAN)と協力して、第8回目となる「UNESCOユースセミナー」を開催し、150人ほどの高校生や大学生が集まり「ジェンダーとセクシュアリティ」をテーマに話し合った(3月27日~28日)。</li> <li>● かながわユネスコスクール・ネットワーク(KAN)と協力して上記の「UNESCOユースセミナー」のイベント講演会を開催、UNESCOバンコク事務所の性教育担当者などにUNESCOの「包括的性教育」について講演してもらった。</li> </ul>
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● かながわユネスコスクール・ネットワーク(KAN)と協力して、上記の「UNESCOユースセミナー」で実施するワークショップを高校生・大学生チームと開発し、A2サイズ(裏表)のポスターにして教育関係者に配布した。</li> </ul>
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東海大学付属甲府高校へSDGsに関連する授業を提供するなかで、ESDとユネスコスクールについて説明し、申請につなげた。</li> </ul>
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	

	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 創価大学が主催したユネスコスクール関東ブロック大会の運営に、玉川大学・創価大学と共に協力した。大会中には分科会の一つを担当して UNESCO の包括的性教育に関するワークショップを開いた。</li> </ul>
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● かながわユネスコスクール・ネットワークの運営を助け、「UNESCO コースセミナー」を共同で開催した。</li> </ul>
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。 (例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜シュタイナー学園と京田辺シュタイナー学校（どちらもユネスコスクール加盟校）と協力して、海外のシュタイナー学校でユネスコスクールに加盟する学校とのネットワークを作ってきたが、教員や運営者、保護者の参加するオンライン勉強会（英語使用）を7月11日と11月9日に開き、それぞれ4カ国と6カ国からの参加を得た。</li> </ul>
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教養学部とスチューデントアチーブメントセンターの教員が中心になって運営してきた「東海大学ユネスコチーム」に、2022年度からは新規開設の「児童教育学部」と「国際学部」が加わった。</li> </ul>
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全学教養科目において ESD・SDGs を基盤としたシティズンシップ教育を展開した。</li> <li>● 教養学部の学部共通科目において、ユネスコの理念や SDGs 達成に向けたユネスコスクールの役割について解説する教育を行った。</li> </ul>
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	
	4. 自由記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学として「カーボンニュートラル達成に向けた大学等コアリション」に参加し、「人材育成WG」の幹事校として、ESD・SDGs を軸とした教育開発と大学間連携を進めている。</li> <li>● 国連大学 SDG 連携プラットフォームに参加し、大学間連携による SDGs 授業を開発、実施した。</li> <li>● 2022年4月に「東海大学環境サステナビリティ研究所 (TRIES) を設置し、ESD・SDGs に関する組織的な研究活動に向け準備している。</li> </ul>